
冬の快適な暮らし～体感温度～

mmf50

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冬の快適な暮らし〜体感温度〜

【Nコード】

N4775Z

【作者名】

m m f 5 0

【あらすじ】

コマーシャルを見て思ったことで事実とは異なるかもしれない。日記のよつな何か。

最近では日本各地で初雪の便りがあったり、そろそろ冬も本番かと思うところ。ふとテレビのコマーシャルでこんなことを言っていた。

「部屋の湿度が上がれば体感温度も上がる。」

ああそうなのか。今年は節電のためにわざわざそんな情報を伝えているのか…

と一瞬思ったが私の経験上、「そんなはずはない！」と馬鹿みたい
にテレビに向かって叫んでいた。

しかし叫んでみたが、そのコマーシャルの全てを見たわけではないので、もしかしたら画面の端に小さく、このような注意書きがされていたのかもしれない。

「室温20度での体感温度の場合」これが書いてあれば、間違いではなさそうだ。という考えに至ったのも、夏場湿度が高いと不快であることは身体が覚えているし、私は以前室温が10度以下で加湿器を使用した際、使用後の方が寒いと感じた経験があるからだ。何故寒いのかと言えば、空気と水蒸気の熱容量がどうたらこうたらとかいう理由があるはずだ。

それにしても、湿度を上げるといのは具体的にどの数値からどれだけ上げたのか分からない。0から100まで上げたのか、冬の外気の平均値から過ごしやすいと言われてる50までなのか分かりやしない。

それに湿度だって相対湿度、絶対湿度みたいにあるようで、一体ど
つちのことなのか。まあ分かったところで、私はその違いを記憶していないので意味はないが。

私がコマーシャルをすっかり見ていないのが悪いのかもしれないが、体感温度なんて人によって差があるものだと思うので一概には言え

ないとも考える。

少し調べてみたことをまとめると、結局は気温と湿度をある程度上げることが必要であって、湿度だけ上げても気温が低くてもあまり意味はないようで、実際に10度程度以下では湿度が上がるほど体感温度は下がるそうだ。

しかし無駄に湿度を上げるとある問題が生じるのだが、それは結露である。これがなかなか厄介で、せっかく暖房器具の設定温度を低くしても暖かく感じられるように湿度を上げているのに、水滴が窓を曇らせる。曇って外が見えなくて厄介と言ってる訳ではなく、窓の表面積が水滴でデコボコになって大きくなってしまいうことが厄介なのだ。

これでは部屋の熱が意図せず効率的に外に逃がすことになってしまい、本末転倒だ。節電のための加湿が部屋の空気と外気との熱交換に加担しているのだから。

というわけで冬の快適な生活を目指すならば、断熱の効果が有りそうなカーテンでも取り付けて、カーテンを閉めれば良いと思う。その状態である人は節電などお構い無しに暖房器具を使えば良いし、ある人は部屋なのに外に出かけるような服を着込めば良い。

部屋の空気と外気とに出来るだけ隔てりを持つことが、快適でエコな生活だと思い込んでいるだけなのかもしれないが。

思い込んでいるだけなので、事実とは違うのかもしれないのが不安だ…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4775z/>

冬の快適な暮らし～体感温度～

2011年12月16日02時49分発行